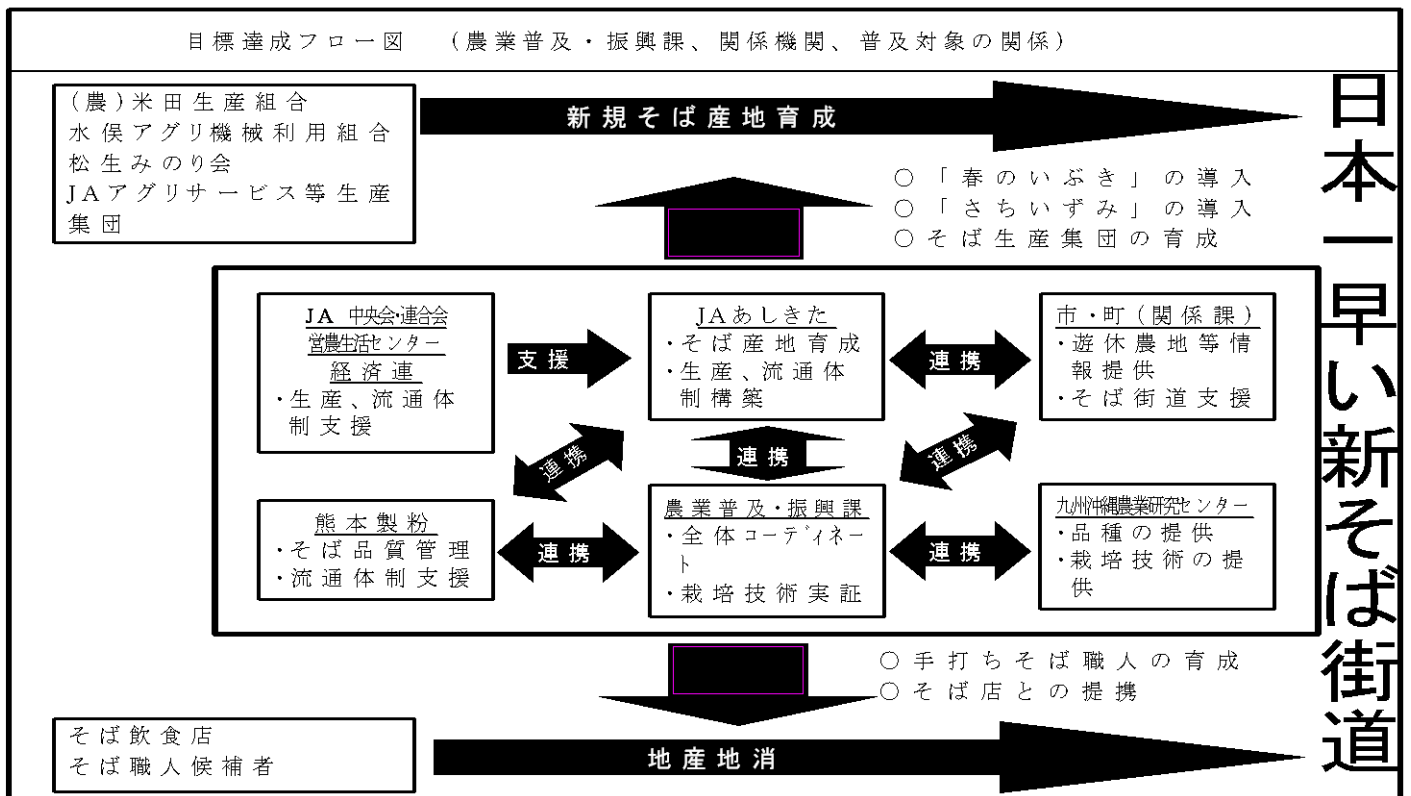


2-⑫日本一早い新そば街道づくり（芦北）

- ① 活動期間：平成19年度～21年度（3年目）
- ② 対象：（農）米田生産組合、（農）みのり会、（株）MOAファーム
JAアグリサービス、その他そば栽培農家
- ③ 現状及びニーズの把握
そば栽培は、新たな特産品づくりを目指して、（農）米田生産組合、（株）MOAファーム、（農）みのり会が栽培を行い、JAアグリサービスが作業補完を行っている。実需面では、管内のそば店や手打ちそば愛好家から、そば粉の需要希望がっており、あしきた蕎麦街道づくりの下地が整いつつあり、産地づくりとそば街道づくり両面で支援することが求められている。
- ④ 到達点における普及対象の姿
集落営農法人が生産の主体となり、機械化システムの構築により省力化を図り、新たなそば産地を形成し、初夏の新蕎麦をコンセプトに地元飲食店等での地産地消が拡大し、「日本一早い新そば街道」が形成され、地域活性化が図られる。
- ⑤ 普及指導等の内容
(ア) 課内の活動体制 チーフ：田中（誠）、メンバー：中根、中村（洋）、川口
(イ) 関係機関との推進体制



(ウ) 普及指導内容

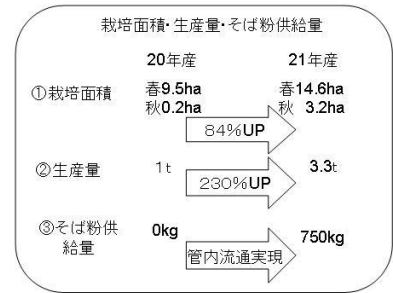
- a そば産地づくり (a) 生産・流通体制の確立支援
(b) 安定生産に向けた栽培の改善
- b そば街道づくり (a) 日本一早い新そば街道の形成
(b) 新そばまつりの開催による産地 PR

⑥ 活動の結果及び成果

(ア) そば産地づくり

a JA と連携した生産体制の確立

- ・栽培者、作付ほ場リストを作成し計画作業へ取組んだ。種子配布等の遅れはなかったが、一部に播種時期の確認ができないほ場もあった。平生地区等においては栽培適地であることが確認できた。
- ・コンバインはJAが春そばのみ他産地からレンタルしたが、機械不調が発生し作業遅れもあった。初めて取り組んだ循環型乾燥機、籾摺り機での乾燥調製作業は順調に行われた。
- ・地元供給への窓口業務をJAに行ってもらった。玄そば2回目出荷分のそば粉の品質低下が指摘された。刈遅れの影響と考えられる。



b 安定生産に向けた栽培技術の改善

- ・湿害回避のための播種様式を検討するため展示ほを設置した。耕起時の碎土、畝立、作業性の面から(独)九州沖縄農業研究センターが開発した播種機利用による効果が高い。参考で調査したレンゲ跡栽培は湿害・乾燥害回避、肥料効果が高く多収である。
- ・過去3年間の展示ほ結果等により春・秋の耕種基準を作成した。
- ・「春のいぶき」の種子を管内で確保し、さらに周年供給に向け秋そば「さちいずみ」の栽培を拡大した。

(イ) そば街道づくり

a そば街道づくり

- ・管内のそば店4店舗で日本一早い新そば街道による地産地消(そば粉750kg)を実現した。

b そばまつりの開催

- ・物産館5ヶ所でそば祭りを開催し産地をPRした。試食した消費者から麺がほしいとの声も上がった。



⑦ 残された問題点と今後の方向

- ・日本一早い新そば街道を形成することができたが、生産面では単収が低く、耕種基準に沿った作業により単収向上と安定生産が課題になっている。
- ・そばの収益性は低い現状であり、そば栽培の定着のためには玄そば出荷やそば粉供給に加え、加工品等の商品開発により付加価値型生産流通体制を確立する必要がある。



(農)みのり会
松崎 俊介氏

【コメント】

水田の有効活用を進めるため、春まきそばを組織の経営に取り入れました。芦北産そば粉は品質面で地元そば店にも好評であり、夏に味わう新そばを食べに芦北にお越しください。そば栽培は、集落内の水田を借地して行っており、集落でのそばの試食会や消費者とのそば打ち体験による交流会を催すなど、そば栽培による楽しみも増えました。今後、さらに排水対策の徹底を図りながら、収益向上のために単収向上に努めていきたい。